

平成 21 年 2 月 16 日

破碎前処理事業者宛
発炎筒・LPG タンクに関するアンケート結果

(社)日本鉄リサイクル工業会
自動車リサイクル法委員会

1. 発炎筒

(1) 発炎筒に関する意識

シュレッダー事業者の場合と比較し破碎前処理事業者の場合、プレス状で引取のため発炎筒の存在に気がつくのは不可能という回答はシュレッダー事業者の半分、すなわち全体事業者の 20%弱であった。発炎筒の存在に気がつく残り 80%の事業者の回答は、発炎筒を除去すると回答した事業者が約 70% (54/80)、そのままシュレッダー事業者へ納入すると回答した事業者は約 30%であった。

破碎前処理業者の場合、シュレッダー事業者より発炎筒の存在に気がつく割合は高いが、気がついて発炎筒を除去する割合は 10%程度ではあるがシュレッダー事業者より低いことが判明した。

(2) 除去した発炎筒の扱い

扱いは概ね 3つの回答に分かれ、それぞれは全体の約 30%を占めた。一つは「前工程業者へ返却する」という回答(33%)、もう一つは「自社で保管し産廃として処分」という回答(30%)、最後の一つは「その他の扱い」という回答(37%)であった。

なお、扱いに関する設問「保安炎筒工業会へ送付」に回答した事業所は 1 事業所のみであったため、本設問では「その他の扱い」ということで整理した。

「その他の扱い」に回答した 10 事業所の処理方法は概ね次のとおり。

販売

自社グループ内で集め、焼却処理

ディーラに処理を依頼

トヨタ部品共販、日産部品共販に処理を依頼

炉での焼却

冬場に焼却、残りは保管

キャップを外し 3 日間水に浸した後、重機で潰しシュレッダー処理

保安炎筒工業会へ送付

(3) 発炎筒の処分費用

全国回答 8 事業者の平均処分費用は 1kg 当り 27 円

(4) 発炎筒を除去する場合の時期及び工程、その他意見

アンケート集計結果、第 1 位は、解体業者が解体時に回収するのが

良いとの回答で全体の 50% を占めた。引取業者が使用済自動車として引取る段階が良いとする回答は約 10%。その他の提案・意見が同率の約 10% を占めた。

なお、本設問に対し未回答の事業所があり全体の 30% を占めた。未回答者の考えは、ヒアリングによるものであるが、大きく 2 つにわかれると推測される。一つは除去する時期、工程は引取業の段階、解体業の段階どちらでも良いから回答しない。もう一つは前工程業者や持ち込み業者がしっかりしており、発炎筒が残っている解体自動車は入荷していないという考えによる。

その他の提案・意見は概要以下のとおり。

使用済自動車の引取時が望ましい。回収済みの車両はステッカー等で表示する。

使用済自動車の解体工程前、すなわちフロン回収やエアバッグ処理の時点で発炎筒を回収するのが良い。

回収は構わないが、処分費用を当該回収会社が負担するのではなくリサイクル料金に反映してほしい。処分費用がかからないのであれば、解体業者の解体時回収が進むと推測される。

解体業者の解体時がベスト。回収システムの構築が急務。弊社で止むを得ず保管している発炎筒の処分方法を教えて欲しい。問題が起きてからでは遅い。

発炎筒を処理してくれるところが少ない。

しっかりした回収システムがあればよい。

除去せず製鋼所に出荷している。

弊社は解体業者より解体済みの車両（プレス）を引取っており、発炎筒や L P G タンクは除去済みになっている。発炎筒のついた車は入荷しない。

2. L P G タンク

(1) L P G タンク処理に関する意識

プレス状で解体自動車を引取るため、L P G タンクの存在に気付くのは不可能という回答は、シュレッダー事業者の場合の 20% と比較すると、破砕前処理業者の場合、全体の 6% に過ぎないとの回答を得た。すなわち、ほとんどの事業者（全体の 90% 強）が L P G タンクの存在に気が付いていることが判明した。

回答いただいた全体の 90% を占めた事業者の L P G タンクの処理について、「自社で処理する」と回答した事業者は 40%。「自治体に処理を相談する」との回答は皆無であった。残り 50% 強の事業者の対応は以下のとおりであった。

前工程業者あるいは持ち込み業者へ返却する。返却は、タンク取付車を車ごと返却するケースとタンクは返却し車は引取るケースがある。自社で取り外し、高圧ガス取扱い業者に処理を委託する。

自社内で再利用

解体業者に穴をあけてもらってから引取る。
 今まで引取の例がないため、アンケート回答はできない。

(2) LPGタンクの1ヶ月当りの貴社が記憶する入荷件数、入荷・処理にともない危険と感じた件数、事故発生件数

入荷件数の全国計は1ヶ月当り59件、危険と感じた件数は1件、事故発生件数は0件。全国の入荷件数計59件の内訳は九州地区の32件が影響している。関東地区のアンケートでは、解体時、破碎時は社内にある危険物は外してから行うので、特に問題はないとの意見があった。

	入荷件数	危険と感じた件数	事故発生件数	未回答事業		回答事業所数	
				所数	%	合計	%
北海道	7.5	0	0			1	100
東北	6	1	0	1	12	7	88
関東	11.6	0	0			10	100
中部	0.6	0	0	3	50	3	50
関西	0	0	0			2	100
中・四国	1	0	0	1	33	2	67
九州	32	0	0	1	17	5	83
合計	58.7	1	0	6	17	30	83

(3) LPGタンク処理に関する意見

LPGの処理に費用がかかるため、リサイクル料金への追加を検討して欲しい。ほか同様意見1件。

解体時に取り外し、ガスが完全に抜けていることを確認できる状態でスクラップとして扱うのが良い。

発炎筒同様に前処理段階での除去が望ましい。除去後に中のガスを使用してしまえば、特に問題はない。

解体業者に穴をあけてもらい受け入れる。受取後、水を入れてガス抜きを確認。

弊社においてはタンクの見落としはしない。残存ガスは自家消費の上、さらに防爆対策後、シュレッダー処理。解体業者における処理が高圧ガス等の法律に抵触するのか？新たな資格を必要としないような限定処理資格を与えると同時にルール作り、処理方法の広報を望む。シャープガスの代わりに使用する。

LPGタンクの処理は専門家に委託し徹底していただきたい。一度でも爆発すると命取りになる。

LPGタンク付き車は入荷したことがないので、対応できません。

以上